環境経営レポート

®環境省
エコアクション21
認証番号0002668

２０２０年１０月１日～２０２１年９月３０日

《第１４ 版》

２０２２年 ３月 ２日 作成

株式会社　エコテック

住所：静岡県静岡市葵区新間１０８９－２４４
（アオイテクノパーク（協）内）

ＴＥＬ：０５４－２７６－２５０６
ＦＡＸ：０５４－２７８－９６４４
ＵＲＬ：www.kk-ecotec.co.jp/

目　次

1. 組織の概要 ---------- P. 1～2
（事業所、所在地、事業の概要、事業規模・敷地概要等）

2. 実施体制 ---------- P. 3
（認証・登録範囲）
(1)役割及び権限 ---------- P. 4

3. 環境経営方針 ---------- P. 5

4. 環境経営目標と実績 ---------- P. 6

5. 環境経営計画と取組状況 ---------- P. 7

6. 環境経営計画の取組結果とその評価、次年度の取組内容
(1) 環境経営計画の取組結果とその評価 ---------- P. 8～9
(2) 環境経営計画の取組状況 ---------- P. 10
(3) 次年度の環境経営計画 ---------- P. 11

7. 環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価の結果並びに
違反、訴訟等の有無 ---------- P. 12

8. 代表者による全体評価と見直しの結果・指示 ---------- P. 13

１.組織の概要

１．会社名及び代表者名
株式会社　エコテック
代表取締役社長：杉本 篤美

２．所在地
本社・工場：〒４２１－１２０１
静岡県静岡市葵区新間１０８９－２４４（アオイテクノパーク（協）内）
第２工場（倉庫）：〒４２１－１２０１
静岡県静岡市葵区新間１０８９－２０１

３．環境管理責任者名及び連絡先
管理責任者：取締役専務　海野 哲也
連絡担当者：市川 雅子
連　絡　先：ＴＥＬ　　：０５４－２７６－２５０６
ＦＡＸ　　：０５４－２７８－９６４４
Ｅ－ｍａｉｌ　ichikawa@kk-ecotec.co.jp

４．事業活動の内容
プレハブ、冷凍、冷蔵庫、環境試験室等の断熱パネルの設計、製造、販売

５．事業規模と事業年度　　（2021年度は2020年10月～2021年9月）

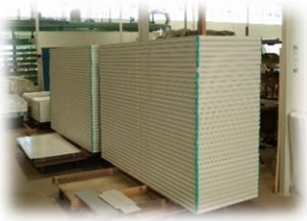
	単位	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度
売上高	百万円	1114	813	800	941
従業員	人	38	40	38	38
床面積	㎡	2083	2083	2083	2083

事業年度は１０月～９月です。

本社・工場　1905 ㎡
第2工場　178 ㎡

６．当社製品

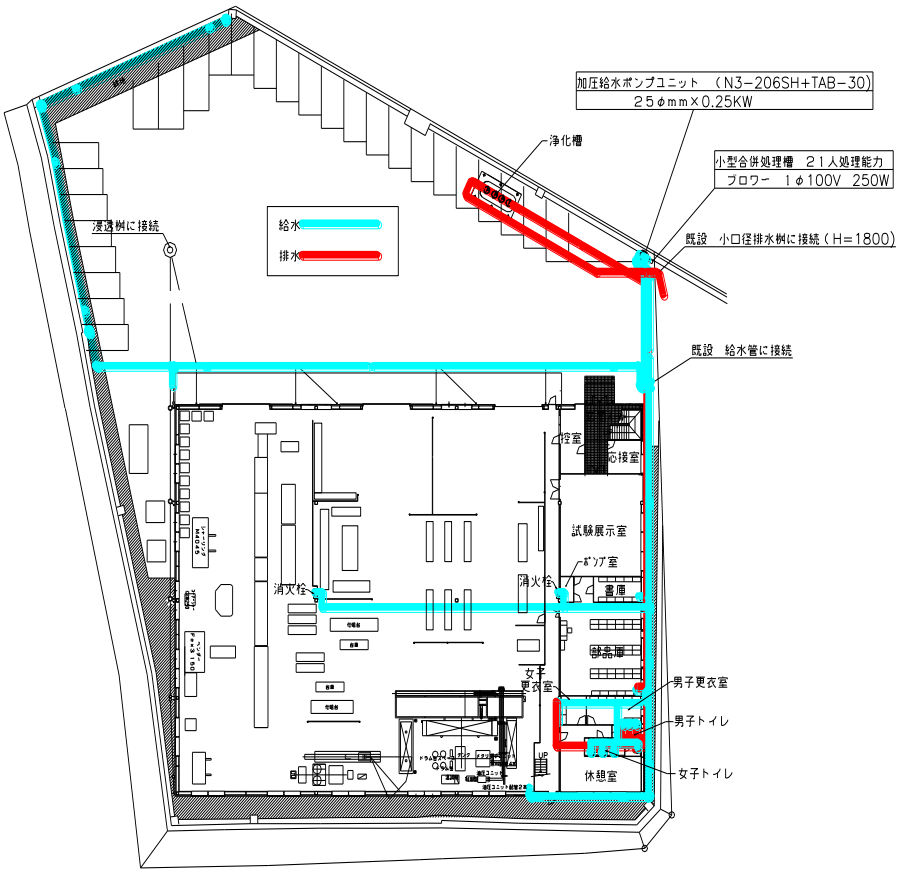
断熱扉

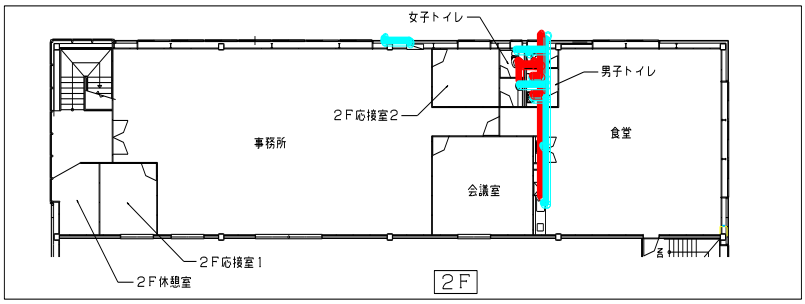

断熱パネル

断熱パネル（室内）

1-2. 敷地概要

◎都市計画法での用途地域指定・・市街化調整区域
◎静岡県生活環境の保全等に関する条例での地域指定
・騒音：第４種区域
・振動：第２種区域の２





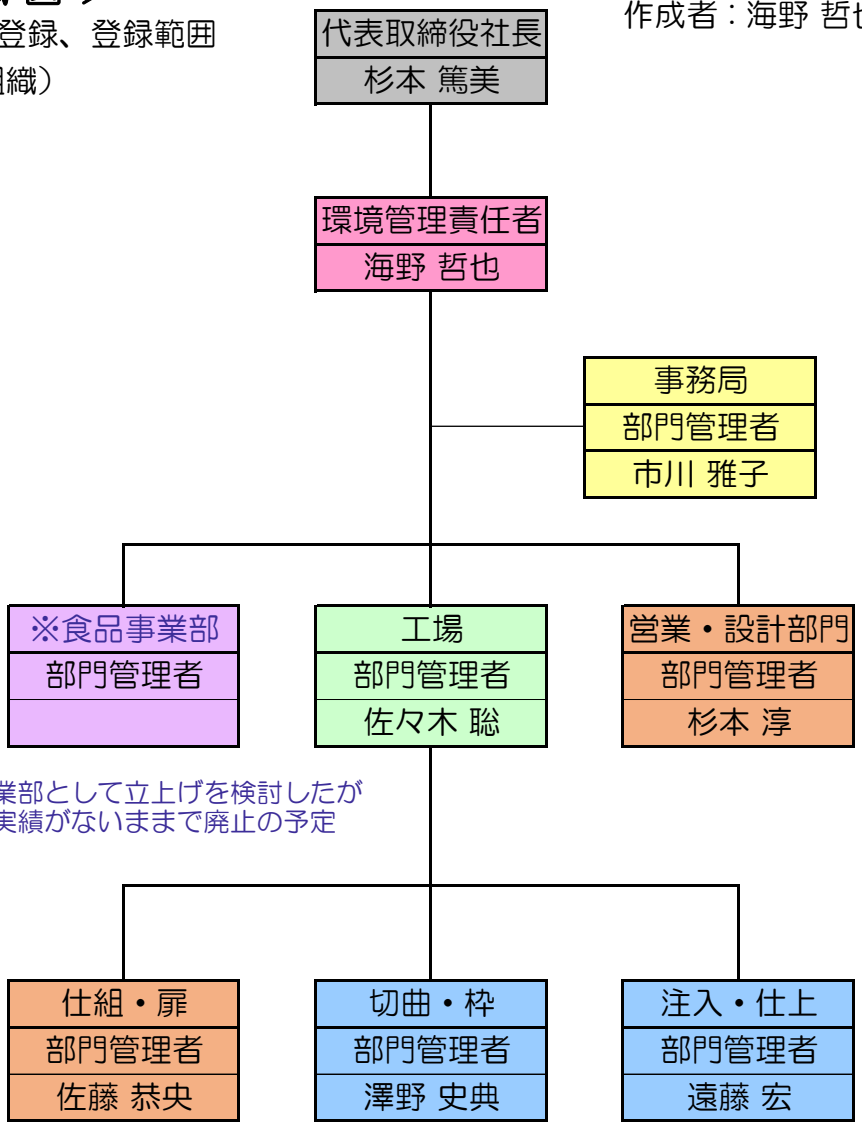
2. 実施体制

環境経営システムの実施体制

作成：2021年9月30日
作成者：海野 哲也

＜ 組 織 図 ＞

・認証登録、登録範囲
（全組織）



2-1. 役割及び権限

①社長

- 環境経営システムの構築、環境経営マニュアルの制定ならびに見直し。
- 環境管理責任者の任命。
- 経営における課題とチャンスの明確化
- 環境経営方針、環境経営目標の決定並びに見直し。
- 環境経営計画の承認。
- 環境経営システムの構築、運用、維持に必要な経営資源の準備
- 実施体制の構築。
- 緊急事態発生時の統括。

②環境管理責任者

- 環境経営システムを確立し、実施・維持管理を継続的に運用。
- 環境経営方針、環境経営目標、環境経営計画の立案。
- 環境経営計画の推進状況把握と社長への報告。
- 該当環境関連法規等の把握と管理。
- 環境経営システムに関する規定類の整備。
- 環境関連教育、訓練の計画策定と統括。
- 緊急事態発生時の対応実施と報告。
- 問題点発生に対する是正及び予防措置の対応指導。
- 社長による環境経営システムの見直しの為の情報を提供。

③部門管理者

- 環境経営計画の推進と必要とする資源の準備。
- 該当環境関連法規等の遵守状況把握。
- 環境教育、訓練の実施。
- 緊急事態及び問題点が発生した場合、その処理と是正並びに予防処置と報告。
- 運用管理、監視、測定、記録管理。

④推進事務局

- 更新審査、中間審査など更新申請等に関わる事務手続き。
- 環境経営レポート作成、データの収集と分析。
- 教育資料の作成、配布、掲示。
- 活動の啓蒙、活動内容、取組結果の周知、公表など。

⑤従業員

- エコ活動の推進、実践。
  節電、節水、こまめに機械の停止操作、無駄の削減、廃棄物の削減等に努める。
- 作業活動の中での改善。
  不良発生、無駄等に対し改善活動に努める。

３. 環境経営方針

〈環境理念〉

株式会社エコテックは、断熱パネルの製造活動が環境に何らかの負荷を与えていることを認識し、「自然環境の保全と環境にやさしい事業活動」を念頭に地域社会に調和して持続可能な社会を実現するため環境保全の向上に努めます。

〈環境方針〉

当社は環境理念に基づき、以下の基本方針を定め継続的な環境経営を展開します。

１．二酸化炭素排出量(CO_2)の削減に取り組みます。

2．リデュース・リユース・リサイクルを使い分け最適な方法を選択して、廃棄物排出量の削減に努めます。

3．節水に努め、水使用量を削減します。

4．化学物質の使用量を把握し、適切な管理を行います。

5．製品及びサービスについては、環境に配慮した生産活動を中心に環境経営の継続的な改善を行います。

6．環境保全に関する関連法規を遵守します。

7．環境ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝの一環として、人材育成及び社会貢献活動に取り組みます。

8．この環境方針を全社員に周知徹底すると共に環境意識の向上を図ります。

制定日　　平成１８年１０月 １日
改定日　　平成２２年１０月 １日
改定日　　令和　元年１０月 １日
改定日　　令和　2年　5月 ２６日

株式会社　エコテック
代表取締役社長　杉本 篤美

4.環境経営目標及び実績

運用期間　2021年度（2020年 10月1日　～　2021年 9月30日）

環　境　経　営　目　標

No	項目	管理項目	区分	単位	基準年度	今年度	増減目標	中長期目標年度	
					2016年度	2021年度		2022年度	2023年度
					2015年10月～2016年9月	2020年10月～2021年9月		2021年10月～2022年9月	2022年10月～2023年9月
1	二酸化炭素排出量の低減	二酸化炭素排出量対売上高比	排出量/売上高	kg-CO_2/万円	240.4	238.0	-1.0%	-1.0%以上	-1.0%以上
		二酸化炭素排出量		kg-CO_2	184,010	—	—	—	—
	※購入電力排出係数は、リコージャパン（H29年度）調整前排出係数の「0.520kg-CO_2/kwh」を使用	電力使用量対売上高比	使用量/売上高	kwh/万円	278.6	275.80	-1.0%	-1.0%以上	-1.0%以上
		電力使用量		kwh	205,293	—	—	—	—
		軽油使用量	使用量	ℓ	2,634	—	—	—	—
			走行距離	km	—	—	—	—	—
			燃費	km/ℓ	7.98	8.04	0.7%以上	0.8%以上	0.9%以上
		ガソリン使用量	使用量	ℓ	15252	—	—	—	—
			走行距離	km	—	—	—	—	—
			燃費	km/ℓ	12.45	12.77	2.6%向上	2.7%以上	2.9%以上
	※1	LPG使用量	使用量	kg	—	数量把握		-1.0%以上	-1.5%以上
2	廃棄物排出量の低減	一般廃棄物排出量(可燃物)	段ボール・可燃ゴミ	t	2.3	—	—	—	—
		産業廃棄物排出量	汚泥・廃油 廃プラスチック	t	131.3	—	—	—	—
		廃棄物排出量	総排出量	t	135.5	133.6	-1.4%以上	-1.5%以上	-1.6%以上
3	水使用量の低減	総使用量	地下水	㎥	生活用水が主であり節水に努める				
					269	266	-1.0%以上	-1.0%以上	-1.0%以上
4	化学物資使用量の管理	特定化学物質	トルエン・メチレンビス	—	使用量の適切な管理				
				kg	10735	—	—	—	—
5	環境に配慮した生産活動の取り組み	工程内不良発生件数	不良件数	件数	136	90	-33.9%	90以下	90以下
			売上高	百万円	765.3				

コメント：

環境経営目標の実績数量は、生産量(売上高)の増減に伴い大きく影響されて、比較時に合致しない一面があり売上高比による目標設定とする。

※1 管理項目を今年度から燃料変更に伴い、灯油からLPG使用量に変更した。

環　境　経　営　実　績

No	項目	管理項目	区分	単位	基準年度	2021年度			
					2016年度	目標値	増減目標	実績値	増減率(%)
					2015年10月～2016年9月				
1	二酸化炭素排出量の低減	二酸化炭素排出量対売上高比	CO2排出量/売上高	kg-CO_2/万円	240.4	238.0	-1.0%	234.6	-2.4%
		二酸化炭素排出量	実績値	kg-CO_2	184,010	—	—	220,881	20.0%
	※購入電力排出係数は、リコージャパン（H29年度）調整前排出係数の「0.520kg-CO_2/kwh」を使用	電力使用量対売上高比	使用量kwh/売上高	kwh/万円	278.6	275.80	-1.0%	219.4	-21.3%
		電力使用量		kwh	205,293	—	-	206,527	0.6%
		軽油使用量	使用量	ℓ	2,634	—	—	7,142	271.1%
			走行距離	km	—	—	—	56,762	—
			燃費	km/ℓ	7.98	8.04	0.7%以上	7.95	-0.4%
		ガソリン使用量	使用量	ℓ	15,252	—	—	24092	57.9%
			走行距離	km	—	—	—	316,638	—
			燃費	km/ℓ	12.45	12.77	2.6%向上	13.14	5.6%
	※1	LPG使用量	使用量	kg	—	数量把握		13054	—
2	廃棄物排出量の低減	一般廃棄物排出量(可燃物)	段ボール・可燃ゴミ	t	2.30	—	—	2.48	7.8%
		産業廃棄物排出量	金属くず・木くず 廃プラ等	t	131.3	—	—	212.4	61.7%
		廃棄物排出量	総量	t	135.5	133.6	-1.4%以上	215.4	58.9%
3	水使用量の低減	総排水量	地下水	㎥	生活用水が主であり節水に努めた。				
					269	266	-1.0%以上	387	43.8%
4	化学物資使用量の管理	特定化学物質	トルエン・メチレンビス		使用量の適切な管理を実施した。				
				kg	10735	—	—	15550	44.8%
5	環境に配慮した生産活動の取り組み	工程内不良発生件数	不良件数	件数	136	90	-33.9%	78	-42.6%
			売上高	百万円	765.3	—	—	941.4	23.0%

5. 環境経営計画と取組状況

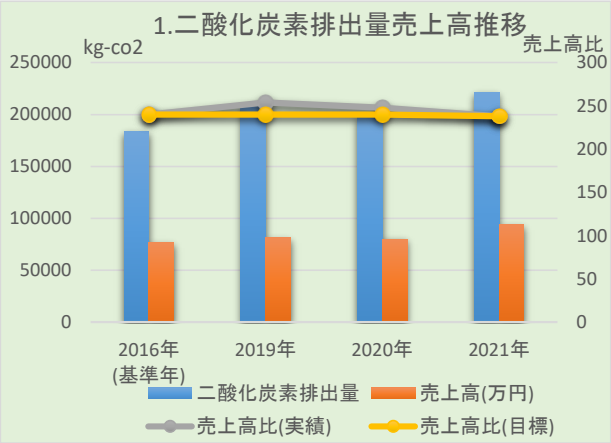
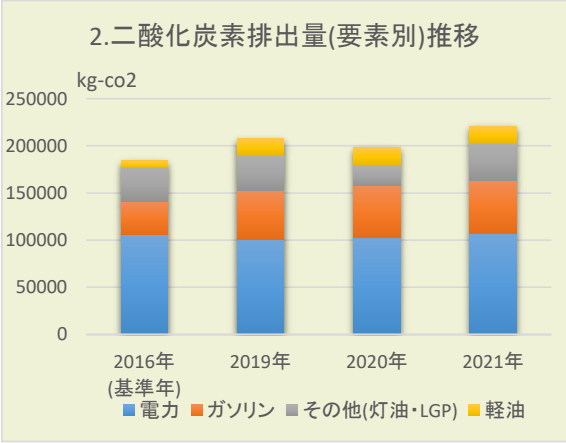
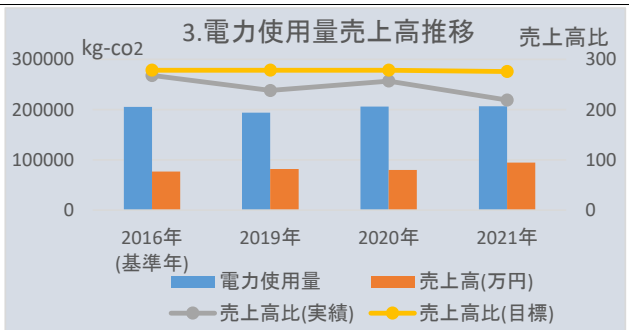
活動項目		施策（実施項目）	担当	内容	スケジュール(2020年～2021年) 10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	備考	評価
二酸化炭素排出量の低減	1.電気使用量の削減	① エアコン設定温度の管理	市川・石上	エアコン起動時・運転中定期的にチェックする													冬季20℃・夏季26℃ 8時・12時に温度確認	○
		② ＯＡ機器等が未使用時の電源OFF	市川	操作中断(30分以上)時には電源を切る														○
		③パソコンを省電力モードに設定	海野	省エネモードに統一する・画面待機モードに設定														○
		④ 照明の消灯を徹底	市川・遠藤	朝・昼・夜等で人がいない場所の照明を消灯														○
		⑤ 照明器具の使用場所の表示	増田・佐藤	照度不要のエリアは消灯する														○
		⑥ エアコンフィルターの清掃	当番制	定期的な点検と清掃の実施													毎月第三水曜日	△
		⑦ 出入口・窓の解放管理	市川・佐藤	2階出入り口窓・工場出入口窓開放確認													換気の活用	○
		⑧ 自販機の電力削減	海野	使用しない時間帯(夜間等)は電力カットする														○
	☆	⑨ 工場設備の省エネ化と管理	佐々木	プレス・シャー・ベンダーのメンテナンス													ベンダーの更新完了	○
	2.燃料使用量の削減	① 不必要なアイドリングの禁止	車両使用者	アイドリングストップの実践													「エコドライブ10」の励行	○
		② 急発進・加速の禁止	車両使用者	環境に配慮した安全運転意識の向上														○
		③ ガソリン、軽油車両の燃費管理	市川	各車両ごとの燃費を把握する														○
		④ 社有車の低燃費車輌への入替え	海野	更新時に購入の検討													随時	○
	☆	⑤ エコドライブ活動の推進	海野	資料等による継続的な教育													レベルのチェック	○
	☆	⑥LPG燃料ボイラーの効率的な運用	遠藤	操作とメンテナンス													LPG使用量の削減	△
		⑦プレス温度管理の徹底	遠藤	サーモセンサーで測定し温度管理する														○
水使用量の低減	1.地下水使用量の削減	① 不必要な水の垂れ流し禁止	担当者	手洗い等での節水を推奨する													節水シール貼付け	○
		② 漏水のチェック	市川	メーター器にて漏水チェック													夏場の使用量を要チェック	○
廃棄物排出量の低減	1.事務所ゴミの削減	① 余分なコピーをしない活動推進	担当者	コピーミスの減少													ペーパーレス化	△
	2.廃棄物の適正な処理	① 再生資源(紙類)の適正処理	収集担当者	新聞紙・雑誌・ダンボール等の再生利用の徹底													随時	○
		②ダンボールのリサイクル	滝口	出荷時・混載時に活用する													随時	○
		③金属のリサイクル	沢野	鋼材の再利用													随時	○
環境への配慮	1.環境負荷の低減	①工程内の不良削減	海野・佐々木	不良内容の分析と対策													作業ミス発生の防止	○
化学物質の管理	1.化学物質の把握と管理	①トルエン・メチレンビスの適切な管理	佐々木	トルエン含有量無し溶剤の使用比率を拡大を施策													デルソールKを使用して試行	○
社会活動に参加	1.社会活動参加	① 地域ボランティアへの参画	全員	清掃活動･草刈への参加													工場周囲の環境整備	○
環境教育の実施	1.環境教育	① 継続的な教育訓練	海野	計画書により推進														△

※ 色で塗りつぶしの項目は、今年度の推進・強化活動です。

※取組の達成評価　○：達成度が100%～80%程度　△：80%～50%程度　×：49%以下

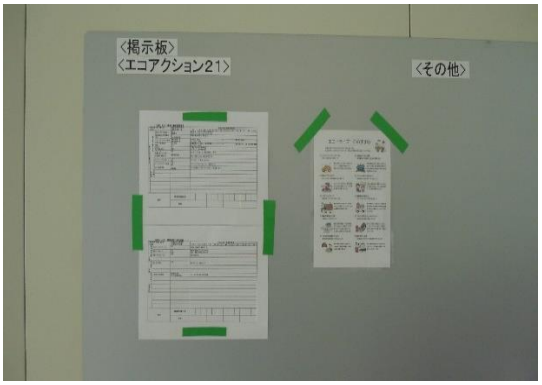
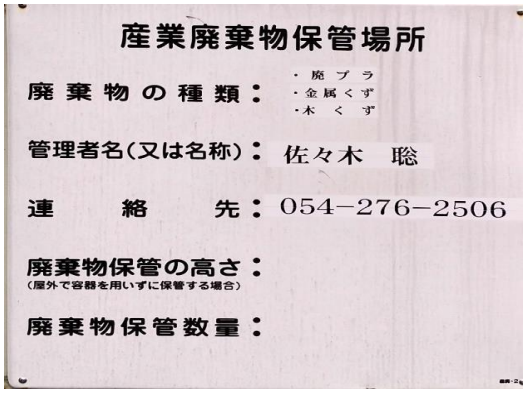
6-1．環境経営計画の取組結果とその評価・次年度の取組内容

評価：◎目標達成（10%以上） ○ 目標達成(10%未満 ） △ 目標未達成(-10%未満) X 目標未達成(-10%以上)

項　　目	結果	評　　価
二酸化炭素排出量対売上高比の低減	○	・二酸化炭素排出量対売上高比は、-1.0%の目標値に対して実績値は-2.4%で 目標を達成した。
		・二酸化炭素排出量は売上高の増加に伴い漸増傾向にあるが、今年度は基準年度比で20.0%の増加である。その背景には営業活動及び製品配送等の領域拡大によるガソリン使用量及びLPGボイラー稼働時間の増加がある。
		・達成した要因としては、基準年度比売上高は23.0%増加したが二酸化炭素排出量全体の約50%を占める電力使用量やガソリン・軽油使用量が横這いで、増加したのはボイラに使用するLPGだけであったことが寄与した。
		・燃料使用量の増減は、製品の販売エリア(全国)の状況による変動が大きく予測は難しい。そのため車両の燃費目標を設定しエコドライブ等による燃費向上の取組みを継続する。
		
電力使用量対売上高比率の低減	◎	・電力使用量の実績は0.6%増加したが、売上高比は-21.3%の実績で目標を達成した。電力使用量売上高比は、2017年度から継続して目標を達成しており節電活動が定着してきている。
		・要因としては、売上高の変動による設備機器の電力負荷の増減を設備不使用時の節電や照明機器のこまめな消灯等の対応によるものと判断する。
		・引き続き、設備機器の待機電力の削減や不使用時の消灯の徹底などの活動を継続する。
		
軽油・ガソリン車の燃費向上(※規準年の燃費が不明のためH29年度の燃費と比較して評価した。)	○	・ガソリン使用量の実績は基準年度比57.9%増加し、燃費は 13.1 km/ℓで目標を5.6%上回って達成した。基準年度の燃費を把握していないため比較できないが、暫定目標の12.4km/ℓより燃費が向上した。二酸化炭素排出量の目標を達成するにはガソリン使用量を抑制するしかないが外部要因による変動が大きく使用量のコントロールが難しい。
		・使用量の増加要因としては、営業員等の増員に伴い基準年度比で増車した2台分の使用量が加算されたもの。また既に4台をハイブリット車に更新して運用中であることが燃費の向上に大きく寄与したと推測する。 ・引き続き車両個別の燃費推移の把握とエコドライブの励行を推進し燃費の向上に取り組む。

項　　目	結果	評　　価
		・軽油使用量は、トラックによる製品配送が九州・東北方面など遠距離地区が例年より回数が多く使用量は271.1%と大幅に増加した。 燃費は、7.95km/ℓで前年度7.98km/ℓより僅かであるが低下した。 長距離運転の運行に伴い安全運転に努め燃費の向上に取り組む。
		・車輌燃費については、燃料使用量や燃費の「見える化」によりフィードバックすることで意識向上を図り燃費向上につなげる。
LPG使用量の低減	―	・灯油は、ボイラーで使用していたが2020年1月に火力が強いLPG燃料に変更した。この変更により二酸化炭素排出量は、灯油使用時(前年度)より86.7%と大幅に増加した。この要因としては、LPGの二酸化炭素排出係数が灯油より20.5%高いことやがボイラ稼働時間の増加によるものと推測するが、今後の推移を検証して判断したい。使用量は今年度実績を基準として削減に取組む
廃棄物排出量の低減	×	・一般廃棄物及び産業廃棄物の排出量合計は、基準年度比で58.9%と大幅な増加となり未達成であった。要因としては納品現場で解体した製品(パネル)等の引取品が大幅に増加したことが影響している。 ・産業廃棄物では金属くずの排出量が最も多い。パネル枠製作時の金属切断工程等で端材は、どうしても発生し生産量に比例する。端材発生の削減に取組む。
		・一般廃棄物の段ボール等(梱包材)排出量は、7.8%と僅かに増加した。 ・分別の徹底と段ボールの再使用の取り組みを継続する。
地下水使用量の低減	×	・水は業務時の手洗い等で使用している。節水に努めたが使用量実績は43.8%の増加であった。 コロナウィルス対策のため、工場及び事務所での手洗い等で使用量が増加したことが要因である。
化学物使用量の低減 (トルエン・メチレンビス)	○	・溶剤などの保管や管理は適切に実施した。 ・洗浄剤などに含まれるトルエン等の数量目標は設定していないが、基準年度比で44.8%と大幅に増加した。要因は、パネル生産量の増加分が使用量に上乗せとなったためである。 ・引き続き、他のトルエン含有無しの溶剤を模索して試行する。
工程内不良件数の減少	◎	・今年度の不良件数は、78 件で90件以下の目標値はクリアーした。 ・不良発生件数は年々減少傾向にあり、発生要因の解析と個人の技量レベルアップを図 り作業ミスの減少に取組む。
社会活動に参加	○	・地域の環境保全の一環として工業団地周辺道路の清掃活動を継続して実施しており、今年も実施した。 ・今後も継続して実施する。

6-2. 環境経営計画(活動)の取組状況

・環境掲示板	・廃棄物保管場所表示
	
・エアコン温度管理表示	・節電表示
・工場設備の省エネ化(ベンダーの更新)	・廃棄物コンテナ分別表示
・防災訓練	・工場周辺道路清掃

6-3. 次年度の環境経営計画（2021年10月～2022年9月）

活動項目		施策（実施項目）	担当	内容	スケジュール（2021年～2022年）												備考
					10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	
二酸化炭素排出量の低減	1.電気使用量の削減	① エアコン設定温度の管理	市川・石上	エアコン起動時・運転中定期的にチェックする													冬季20℃・夏季26℃ 8時・12時に温度確認
		② ＯＡ機器等が未使用時の電源OFF	市川	操作中断(30分以上)時には電源を切る													
		③パソコンを省電力モードに設定	海野	省エネモードに統一する・画面待機モードに設定													
		④ 照明の消灯を徹底	市川・遠藤	朝・昼・夜等で人がいない場所の照明を消灯													
		⑤ 照明器具の使用場所の表示	増田・佐藤	照度不要のエリアは消灯する													
		⑥ エアコンフィルターの清掃	当番制	定期的な点検と清掃の実施													毎月第三水曜日
		⑦ 出入口・窓の解放管理	市川・佐藤	2階出入り口窓・工場出入口窓開放確認													換気の活用
		⑧ 生産設備の運転不要時の停止徹底	海野	使用しない設備の電力カット													
		⑨ 工場設備の管理	佐々木	プレス・シャー・ベンダーのメンテナンス													電動機負荷の低減
	2.燃料使用量の削減	① 不必要なアイドリングの禁止	車両使用者	アイドリングストップの実践													「エコドライブ10」の励行
		② 急発進・加速の禁止	車両使用者	環境に配慮した安全運転意識の向上													
		③ ガソリン、軽油車両の燃費管理	市川	各車両の燃費把握と管理													
		④社有車の低燃費車輌への入替え促進	海野	更新時に購入の検討													ハイブリット車の導入
		⑤ エコドライブ活動のレベルアップ	杉本部長	資料等による継続的な教育													レベルのチェック
	☆	⑥LPG燃料ボイラーの効率的な運用手順	遠藤	操作とメンテナンス													LPG使用量の削減
		⑦プレス温度管理の徹底	遠藤	プレス・シャー・ベンダーのメンテナンス													灯油使用量の削減
排水量の低減	1.水使用量の削減	① 不必要な水の垂れ流し禁止	担当者	手洗い等での節水を推奨する													節水シール貼付け
		② 漏水のチェック	市川	メーター器にて漏水チェック													夏場(使用量)を要チェック
廃棄物排出量の低減	1.事務所ゴミの削減	① 余分なコピーをしない活動推進	担当者	コピーミスの減少													随時
	2.廃棄物の適正な処理	① 再生資源(紙類)の適正処理	収集担当者	新聞紙・雑誌・ダンボール等の再生利用の徹底													分別処理の徹底
		②ダンボールのリサイクル	滝口	出荷時・混載時に活用する													随時
		③金属のリサイクル	沢野	鋼材の再利用													随時
環境への配慮	1.環境負荷の低減	① 工程内の不良削減	海野・佐々木	クレーム削減による不良の減少(不良内容の分析)													作業ミス発生の防止
化学物質の管理	1.化学物質の把握と管理	①トルエン・メチレンビスの適切な管理	佐々木	トルエン含有量無し溶剤の調査と試行													製造工程の見直し・デルソールK以外の溶剤検討
社会活動への参加	1.社会活動参加	① 地域ボランティアへの参画	全員	清掃活動･草刈への参加													工場敷地周辺の道路清掃
環境活動の推進	1.環境教育	① 継続的な教育訓練	海野	計画書により推進													
☆	2.SDGs活動	①活動の取組	全員	取組み内容の検討													勉強会

☆・・・・今期新たに追加した重点活動

7．環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価の結果並びに違反、

1．環境関連法規等の遵守状況

当社に適用される関連法規の遵守状況を確認した結果、違反はありませんでした。

法規等の名称	適用内容	備考（規制基準値・その他）	遵守状況
・廃棄物処理法	・保管施設の表示と保管基準の遵守	表示板掲示（６０cm以上）	○
	・収集運搬業者及び処分業者の委託契約	契約書・業者の許可証	○
	・マニフェストの交付		○
	・マニフェストの保管	Ａ・Ｂ２・Ｄ・Ｅ票の5年間保管	○
	・委託契約書の管理	５年間	○
	・マニフェスト交付状況報告	6月30日までに提出む	○
	・管理票写しの送付がない場合の措置	委託業者からのD.E票の期限内返却	○
・静岡市産業廃棄物の適正な処理に関する条例	・産業廃棄物管理責任者の選任	海野　哲也	○
	・産業廃棄物処理の委託先の実地確認とその記録の保存	年１回以上実地確認	○
	・産業廃棄物を適正に処理		○
・静岡市廃棄物の処理及び減量に関する条例	・適正処理及び再生利用の促進等による減量		○
・騒音規制（市生活環境保護法）（静岡県生活環境保全条例）	・特定施設からの騒音に関する、規制基準の遵守及び施設の届出	特定施設 ・機械プレス（５重量ｔ以上） ・空気圧縮機（3.75Ｋｗ以上） ・旋盤・ボール盤	○
・振動規制法（静岡県生活環境保全条例）	・特定施設からの振動に関する、規制基準の遵守及び施設の届出	特定施設 ・油圧プレス ・機械プレス ・圧縮機	○
・消防法	・少量危険物の貯蔵及び取扱い	ウレタン	○
	・火災報知器の設置	工場500m²以上	○
	・消防用設備の点検と報告	火災報知器・消火栓	○
	・ボイラーの届出	・静岡市火災消防条例	○
・フロン排出抑制法	・第一種特定製品の管理の適正化	・対象設備の点検と記録	○
	・空調機器:業務用のエアコン	・フロン等の油漏れ時の報告	○
	・簡易点検(3ヶ月に1回以上)の実施	・点検等の履歴の保存	○
	・機器を廃棄後の記録の保存	・点検等の記録を3年間保存	○
・浄化槽法	・浄化槽の保守点検及び清掃の実施	保守点検及び定期清掃の実施	○
	・指定検査機関による水質検査		○
・PRTR法	・通知対象物（SDS）の作業場への掲示	・ウレタンフォームB液メチレンビス含む ・ヌレートフォームB液メチレンビス含む	○
・小型家電リサイクル法	・使用済み小型家電品のリサイクル	・パソコン、携帯電話、デジタルカメラ他	○

2．訴訟等の有無

関係機関からの指摘、利害関係者からの訴訟も過去3年間ありませんでした。

◎毎年１０月に見直しを実施します。

遵守確認日　　2021年10月1日

環境管理責任者　海野 哲也

8. 代表者による全体評価と見直しの結果・指示

		項　　目	確認：（必要に応じて評価・コメント記載）	
1 見直し関連情報	1	エコアクション２１文書	☑	2017年度版ガイドライン
	2	環境経営目標及び目標達成状況	☑	売上高が基準年度比で23.0%の増加に伴い、二酸化炭素排出量は20.0%増加したが、売上高比及び電力売上高比は目標を達成した。その中で産業廃棄物排出量など目標が未達成の項目もあり環境経営計画の取組を強化する。
	3	環境経営計画及び取組実施状況	☑	経営計画に基づく取組は、大部分の項目において実行出来た。経営計画の実行と経営目標の達成に向けて管理体制の強化を図る。
	4	環境関連法要求一覧及び遵守状況	☑	該当する法律、規則は遵守した。
	5	外部コミュニケーション・対応記録	☑	外部からの無し。
	6	問題点の是正・予防措置の実施状況	☑	製品の納品先(場所)や営業エリア等の拡大により走行距離が増加して燃料使用量は増加傾向にある。対策として効率的な配車運用とエコドライブの徹底による車両燃費の向上を図る。
	7	取引先・業界・関係行政機関 その他の外部動向	☑	特筆すべき情報は無し。
	8	その他（　　）	☑	2017年度版へ移行済み。

2 代表者による全体評価と見直し・指示	全体の評価・コメント （環境経営システムの有効性 環境への取組の適切性等）		環境経営システムへの取組は定着しつつあると認識しているが、経営目標で未達成が数項目あったことが反省点である。経営面の取巻く外部環境はコロナ禍の影響もあり、また資材入手の懸念等で厳しくなることが想定されるが、保留中の商談の取込み等に注力し、また環境に配慮した新製品の開発と新事業の育成を推進する。その中で二酸化炭素排出量の削減策として重点的に継続して活動している車両の燃費管理やエコドライブのレベル向上を図り、燃料使用量の削減に結び付く取組の強化を指示した。
	見　直　し　項　目	変更の必要性	
	1　環境経営方針	有　・　(無)	
	2　環境経営目標	有　・　(無)	産業廃棄物排出量実績が基準年度と比較して乖離した傾向であり、次年度の結果を見極めてから見直しを検討したい。
	3　環境経営計画・取組項目	有　・　(無)	
	4　環境に関する組織	有　・　(無)	
	5　その他のシステム要素	有　・　(無)	
	6　その他（外部への対応）	有　・　(無)	

2022年 2月 25 日

株式会社　エコテック

代表取締役社長　　杉本　篤美